

震災後初となる岩手県田の浜八幡宮五年祭を助成

～東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド「GBFund」 第9回助成活動を決定～

公益社団法人企業メセナ協議会(理事長:福地茂雄 [アサヒグループホールディングス株式会社相談役]、東京都港区芝5-3-2)は、このたび「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド:GBFund」の第9回助成選考委員会を行い、新たに15件を採択しました(一覧は次頁に掲載)。このうち、祭りや郷土芸能を支援する「百祭復興プロジェクト」(以下、百祭復興)枠では田の浜八幡宮五年祭など8件を採択。今回の助成総額は499万9,500円で、2011年3月23日のGBFund開設以来の助成総件数は196件、助成総額は9,992万9,845円となりました。

引き続き求められる、祭りや伝統芸能の復活

震災発生から2年半以上が経った今も、百祭復興プロジェクトに対して初めて活動を申請する団体が多くあります。今回、採択した「田の浜八幡宮五年祭」もその一つ。岩手県下閉伊郡山田町にある田の浜八幡宮奉賛会は約50名の会員がおり、長年神楽や神輿などの郷土芸能が行われる五年祭で手踊りを奉納していましたが、震災により津波で衣装を流失。会員から経費を集めていたものの2014年9月の震災後初となる五年祭への参加が危ぶまれ、今回の申請となりました。衣装を揃えて参加することで他の伝統芸能団体と一丸となって地域を盛り上げたいとの思いで練習や本番に臨みます。

現地のイニシアティブを重視

百祭復興プロジェクト以外の申請案件では、特に被災者・被災地主導の活動であることを重視しました。東京での定期公演を最終目標に、福島の高校生がオリジナルの演劇作品を都内で上演する活動や、波板石や手漉き和紙などの地域資源を活かし、地元の伝統産業を活性化させるための活動、洪さ知らズを講師に迎えて住民とともに作品を創作・披露し、新たな地域コミュニティ創出へ繋げていく活動など、継続的で多くの人と共有できる案件が多く採択されました。これらは他の団体のモデルケースとなるような新しい試みでもあり、活動のさらなる広がりにも期待しています。

より長期的な取り組みへの支援

今後GBFundでは、地域に伝承しコミュニティの縁となる祭りや伝統芸能への支援を継続する一方、新たな提案については、中長期に渡る地域づくりを視野に入れた活動を支援していきたいと考えています。徐々に本格的になってくるかさ上げ工事など、被災地の状況はますます変化していきます。そのような中であっても、これから活動を始める団体が力強く一步を踏み出せるよう、多くの寄付者の皆様と芸術・文化による復興を応援してまいります。またGBFundを通じて、現地の声・支援者の声が行き交う場となるよう、広報に注力してまいります。引き続きご関心をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

■GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)

GBFund(ジービーファンド、G:芸術、B:文化、F:復興/ファンド)は、2011年3月23日に企業メセナ協議会が立ち上げた芸術・文化による復興支援ファンド。趣旨に賛同くださった寄付者とともに、設立より5年間、被災者・被災地を応援する目的で行われる芸術・文化活動や、被災地の有形無形の文化資源を再生する活動を支援する。次回選考は2014年5月を予定。

■百祭復興プロジェクト









百祭復興(ひやくさいふっこう)プロジェクトは、GBFundのなかで郷土芸能や祭りを重点支援する目的で2012年3月に設置された助成枠。


【本件に関するお問合せ先】

公益社団法人企業メセナ協議会 広報担当:松村 GBFund 担当:寺岡

〒108-0014 港区芝5-3-2 アイセ芝ビル 8階 TEL:03-5439-4520 FAX:03-5439-4521

URL: <http://www.mecenat.or.jp> E-mail: mecenat@mecenat.or.jp

第9回助成活動一覧（※活動内容の詳細については別添書類を参照）	
活動名	実施者・団体（所在地）
 越喜来小学校 浦浜念仏剣舞 伝承活動	大船渡市立 越喜来小学校(岩手県)
東日本大震災復興支援 『きぼうのて2～みつけた たからもの～』プロジェクト	東日本大震災復興支援『きぼうのて』プロジェクト実行委員会 (東京都)
 山田祭りへの参加	山田八幡大神楽保存会(岩手県)
福島県立いわき総合高校演劇部 東京招聘公演	福島県立いわき総合高校演劇部 企画公演実行委員会(東京都)
十中八九いわき渋さプロジェクト2013～2014	「いわき渋さ」実行委員会(福島県)
旧米美川酒造の利活用	NPO 法人 くるりんこ(福島県)
 荒神社例大祭	荒神社神輿会(岩手県)
 田の浜八幡宮五年祭	田の浜八幡宮奉賛会(岩手県)
手すき和紙の新たな可能性の開発	一般社団法人 潮紙(宮城県)
TEDxTohoku 2014	TEDxTohoku(宮城県)
雄勝波板石加工技術の伝承と壁画アートで創る 未来の雄勝プロジェクト	波板地区会(宮城県)
 26年度四日町手踊り組備品整備事業	四日町手踊り組(岩手県)
 東日本大震災被災備品整備事業	荒神大神楽(岩手県)
 平成26年度備品整備事業	大須賀青年親交会(岩手県)
 東日本大震災による流出備品整備	新神大黒舞(岩手県)

 ※百祭復興プロジェクト採択活動



公益社団法人企業メセナ協議会 第9回 GBFund 選考委員会 概要

- 開催日 : 2013年11月11日(月)
- 選考委員 : 片山正夫(セゾン文化財団常務理事)、俵木悟(成城大学文芸学部文化史学科准教授)、船曳建夫(文化人類学者)、吉本光宏(ニッセイ基礎研究所主席研究員・芸術文化プロジェクト室長)、加藤種男(企業メセナ協議会専務理事)
- 採択件数 : 15件、助成総額:499万円500円

■公益社団法人企業メセナ協議会

企業によるメセナ(芸術・文化振興による社会創造)活動の推進を目的として、1990年2月に発足した民間の公益法人。企業メセナへの意欲を高め、社会のメセナに対する理解を深めるために、調査・研究、顕彰、情報集配、助成等を行う。会長:福原義春([株]資生堂名誉会長)、理事長:福地茂雄(アサヒグループホールディングス[株]相談役)。正会員129社・団体、準会員36団体(2013年10月現在)。

第9回 GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)助成活動一覧

活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
<p> 越喜来小学校 浦浜念仏剣舞 伝承活動</p> <p>大船渡市立 越喜来小学校</p> <p>2013年11月～2014年5月</p> <p>大船渡市立越喜来小学校(岩手県)</p>	<p>越喜来小学校では地域を知り故郷を愛する心を育てることを目的として、地域の伝統芸能である浦浜念仏剣舞の体験・伝承に取り組んできた。毎年5月の運動会での披露にむけて生徒たちは保存会の人たちから直接指導をうけて練習を重ねる。震災後一時は活動を断念したが昨年から再開。来年は津波によって流された不足分の衣装・道具類を揃え、伝承活動を継続する。</p>
<p>東日本大震災復興支援『きぼうのて2～みつけた たからもの～』プロジェクト</p> <p>東日本大震災復興支援『きぼうのて』プロジェクト 実行委員会</p> <p>・活動 2013年11月～2014年7月(予定) ・展覧 会 2014年3月1日～14日(予定)</p> <p>①岩手県一関市立荻荘中学校 ②多摩市公益法 人・パルテノン多摩 ③青森県八戸市ポータル</p>	<p>公立小中学校を舞台に、震災をテーマとして作品制作に取り組み、被災地の子ども達の現在の想いや、復興を願う東京の子ども達の想いを相互に交流させた展覧会プロジェクト。550人の生徒達それぞれが自分にとっての震災後の宝物を見つけ、写真に撮り、岩手・東京の学校で同時に展覧会を開催し、「子どもTV ミーティング」を行う。美術表現活動を通して、持続可能な社会作りに向けた多様な能力の育成を目指す。</p>
<p> 山田祭りへの参加</p> <p>山田八幡大神楽保存会</p> <p>毎年9月中旬</p> <p>山田町内(岩手県)</p>	<p>例年山田八幡宮と大杉神社の2つの例大祭(=山田祭り)に参加していたが、被災により参加者が減少、祭りで使う装束などの道具類も不足している。世代の異なる者同士が交流を深め、子供たちに郷土を愛する気持ちを育んでもらうため少しでも揃えて次回にむけて取り組みたい。また、祭りを盛り上げることで地域の復興の力となり、震災前と同じように復活させたい。</p>
<p>福島県立いわき総合高校演劇部 東京招聘公演</p> <p>福島県立いわき総合高校演劇部 企画公演実行委員会</p> <p>2014年2月21日～23日</p> <p>王子小劇場(東京都)</p>	<p>いわき総合高校演劇部の公演を東京で上演するプロジェクト。自らの体験や想いで演劇作品を作り発表することで若い世代の素直な声と気持ちをたくさんの人に届けることを目的とする。震災への意識が風化しないよう、高校生自身で東京公演を行う意味は大きい。今回の公演を機に、定期東京公演実現にむけても取り組んでいく。</p>
<p>十中八九いわき渋さプロジェクト 2013～2014</p> <p>「いわき渋さ」実行委員会</p> <p>2013年11月～2014年3月(4月以降も継続予定)</p> <p>music&bar Queen(福島県)</p>	<p>「渋さ知らズ」を講師として迎え、商店街の空きスペースを活用し定期的にワークショップやライブを行う。アドバイスを受けながら自主練習なども行い、最終的には参加者であるいわき市民自らがオリジナル作品を創作し発表する。中心市街地の活性化やアートを中心に幅広い年代が集う新しいコミュニティ創出、また当面はいわき市をベースに活動するが、ゆくゆくは県外でも活躍するグループとなることを目指す。</p>
<p>旧米美川酒造の利活用</p> <p>NPO 法人 くるりんこ</p> <p>2014年1月</p> <p>旧米美川酒造敷地(福島県)</p>	<p>酒の町として知られる喜多方市の米美川酒造は日本酒業界の不振により解散し、現在その敷地は市の所有となっている。本活動では敷地内の環境美化や建物の修繕・改修を行うことで、原発事故避難者や地域住民の憩いの場として活用できるように整備する。将来的には地域の NPO 団体の活動拠点とすることで地域全体の復興に資することを目指す。</p>

活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
<p>荒神社例大祭</p> <p>荒神社神輿会</p> <p>旧暦 6 月 15 日前後</p> <p>山田町船越地区(岩手県)</p>	<p>青年会としての側面も有している荒神社神輿会は、3つの祭りに参加し地域活動に積極的に参加していたが、装束の一切を流失してしまった。また、メンバーの多くは仮設住宅での生活が続いている。住民の心の拠り所である例大祭で海上渡御と陸上渡御を復活させることで復興への機運を盛り上げ、更に例大祭実施に取り組むことで人々の心をつなぎ、ふるさとへの愛郷心の醸成につなげたい。</p>
<p>田の浜八幡宮五年祭</p> <p>田の浜八幡宮奉賛会</p> <p>2014 年 9 月 15 日</p> <p>山田町船越田の浜地区(岩手県)</p>	<p>田の浜地区は震災により地区の大部分が津波と火災で被災し、多くの住民が故郷を離れ、仮設住宅での生活を余儀なくされている。地域住民の心の拠り所である八幡宮五年祭を実施することで復興への機運を高めることを目標とする。津波で流失した手踊り用の衣装を揃え、来年 9 月開催に向けて神楽の団体等とともに地域一丸となって取り組む。</p>
<p>手すき和紙の新たな可能性の開発</p> <p>一般社団法人 潮紙</p> <p>2013 年 11 月～2014 年5月</p> <p>潮紙手すき和紙工房(宮城県)</p>	<p>宮城の伝統産業である手漉き和紙。伝承者の減少に加え、震災により約 400 年の歴史をもつ工房をなくしてから一時は事業をあきらめかけたが、時代に即した「使われる和紙」を目標に、新たな視点から商品開発をすることで事業再建を決めた。原料の生産・加工を地元で行うことで町の活性化を促すと共に、魅力的な事業にすることで新たな担い手を発掘し、雇用の創出・伝統技術の継承を目指す。</p>
<p>TEDxTohoku 2014</p> <p>TEDxTohoku</p> <p>2014 年 10 月 12 日(日)</p> <p>せんだいメディアテーク(予定)(岩手県)</p>	<p>「東北を創る人を増やす」という団体理念のもと、東北で豊かな未来のための活動をしている人々によるプレゼンテーションを企画し、東北の魅力や伝統文化、地域の問題を解決するための新しい取り組み、震災や日々の生活から得たアイデアを国内外に紹介する。学生を中心に組織された本団体は、東北に興味をもってもらうきっかけの提供を行い、人と人とのつながりを生むことで、東北の未来に貢献することを目的とする。</p>
<p>雄勝波板石加工技術の伝承と壁画アートで創る未来の雄勝プロジェクト</p> <p>波板地区会</p> <p>2013 年 11 月より実施予定</p> <p>石巻市雄勝町波板地区(宮城県)</p>	<p>地域資源である玄昌石は高級硯の原料として利用されてきたが、震災によりその採石場は閉鎖された。本活動では新たな創作の場として工房を創設することで伝統工芸品である雄勝硯はもとより、新規商品の開発や加工技術を学べる場・伝承する場とする。また地元小学校の全児童による玄昌石を用いた壁画アート「未来の雄勝」製作を通し、地域の伝統を学び大切にしていくなを育む。</p>
<p>26 年度四日町手踊り組備品整備事業</p> <p>四日町手踊り組</p> <p>2014 年 1 月 7 日～9 月</p> <p>小鍬神社(岩手県)</p>	<p>四日町手踊り組は幼稚園児から 70 歳代までの約 70 名により構成され、90 年以上地域に伝わっている。震災被害により祭用具全てを流失し、震災後は祭典への参加を断念したが、今年初めて他団体から借りながらなんとか再開。装束や道具が不足し不揃いであっても、祭りに華を与える手踊りの存在は大きく、来年の参加にも大きな期待が寄せられている。まずは太鼓から揃えて祭りを盛り上げ、地域の復興に貢献したい。</p>

活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
<p>祭</p> <p>東日本大震災被災備品整備事業</p> <p>荒神大神楽</p> <p>2013年12月から2014年8月</p> <p>荒神社 祭典、諏訪神社 祭典、山田町イベント他(岩手県)</p>	<p>荒神大神楽は建物内に保管していた道具や装束などを流出し、仮設住宅などに避難をしている者も多い。今年の夏には地域住民より祭りの再開を望む声が多くあったため行えたものの、道具は個人の寄せ集めであり太神楽の舞の披露はできなかった。そのため、今後の活動を継続するために、必要最低限の道具を新調し、次世代に伝えていきたい。</p>
<p>祭</p> <p>平成26年度備品整備事業</p> <p>大須賀青年親交会</p> <p>2014年1月7日～9月</p> <p>小槌神社(岩手県)</p>	<p>震災によって祭り用具の一切をなくし、毎年参加していた大槌祭りへの参加を見合わせていた。町内の復興が少しずつ進むにつれ、手踊りの再開の声も高まり、今年は震災後初めて規模を大幅に縮小させて再開。引き続き来年も神輿渡御行列に参加するために、最低限の備品を整備し、地元根付いた芸能として町の活性化に協力をしたい。</p>
<p>祭</p> <p>東日本大震災による流出備品整備</p> <p>新神大黒舞</p> <p>2014年1月～2014年6月末</p> <p>鶴住居町各神社、神輿御旅所、仮設住宅など(岩手県)</p>	<p>新神大黒舞は装束や山車、太鼓などほぼ一式を流失し、会員の多くも離散している。地域が着々と復興するなか、大黒舞の復活を願う多くの声を地域住民から多く聞いた。そのため、必要最低限の装束や道具を揃え、世代交代に対応できるよう子供と大人の混合チームを作ることで芸能を継承し、地域に元気をあたえるため郷土芸能の良さを伝えていきたい。</p>



【越喜来小学校 浦浜念仏剣舞 伝承活動】